

参道清掃

2019年7月10日

事務局長の志村です。

今回は大山挙げての「参道清掃」に参加して来ました！

今年は来る日も来る日も全くの雨模様で、おまけに気温も低く、こんな梅雨らしい梅雨も近年珍しいのではないのでしょうか。

『時により 過ぐれば民の嘆きなり 八大明王 雨止め給え』と鎌倉3代将軍源実朝も、現在は大山寺の下の前不動にある、最古の木造建築物「俱利伽羅堂」で、長雨を憂いて鎮雨の歌を読んでいます。

さて、梅雨明けが待ち遠しい夏山開きを控え、大山挙げて講中(参詣客)をお迎えするための伝統行事「参道清掃」が行われ、観光協会を代表して参加して参りました。



珍しい梅雨の晴れ間がのぞく下社で開会式です。

本日の参加者は、大山観光振興会の会員に、山頂に電波塔があるご縁から毎年参加いただくTBSの社員さん30名が加わり100名近くになりました。

始発のケーブルカーに乗り切れずに臨時便が出るほどです。



観光振興会の面々は、先導師旅館組合や飲食、物産などに同業ごとに分かれ、毎年決まっている山内各地の分担コースに分かれて作業開始。

小生は昨年に引き続き先導師旅館組合の若手グループ(といっても平気年齢 55 歳位)と一緒に、本坂の 7 丁目から 16 丁目までを担当しました。

これは階段の下に石を入れ段差を縮め歩きやすくする作業です。



本坂 13 丁目付近で登山道を占拠していた倒木をのこぎりで伐採し、丁度山頂からゴミを拾いながら降りてきた TBS 若手社員の手を借りて、谷側に除去し登山道を回復させました。

さすがに若者はパワーがあり難儀していた根っ子も引き抜きました。



参道清掃と名付けられていますが、今はゴミを放置するような不届き者はまずいないため、ヤマビル対策として落ち葉を掻き出す以外は、登山道の整備という土木作業です。

特に 8 丁目の夫婦杉付近は赤土が露出しており、倒木を木杭と石で固定する水切りを設置しました。



登拝門から7丁目までは、旅館組合のベテランたちの手により、参道はきれいに掃き清められ、側溝も掘り直されて、すっかり神域としての雰囲気醸し出されておりました。

参道清掃に参加された皆様、お疲れ様でした！！

※心配されたヤマビルは、女坂やかごや道方面では出没していたそうですが、担当した下社から上の本坂では姿を確認しませんでした。